

僕は後悔していない

じっと、僕は、そばの竹やぶに隠れて、待った。

「男なんだろう！ 入れ！ 入れ！」

足が前にゆかぬ。

彼女のみくびった、冷たい顔が頭に浮かぶ。
迷惑そうに、僕を見る顔が浮かぶ。

彼女の家の人、家に来ている人、皆の、
僕を見下げる目つきが浮かぶ。

自分の情け無い、バカな姿。

自分の自尊心を踏みにじって迄も、
自分の恥を承知で、ここまで来た自分が悲しくなる。

しかし、僕の理性がそう思い、感じる中で、
僕の心がさけぶのが聞こえる。

会いたい、それでも会いたい。
どんな事があっても今日は会う。
会おう、会いたい。

そんなこと、どうでもいい。
ただ、僕は、彼女に会いたい。
それだけなんだ。

他に何も考えたくない。
ただ、僕は、彼女に会いたい。
会いたい。